

乳児期からのステロイド使用後に全身症状を経て睡眠と食生活が変化した小児アトピーの経過 (6歳男児)

症例 ID : 001-06-KH2 | 記録日 : 2016年1月29日

1. 診断・治療前経過

生後2か月から太ももや背中に赤みが出て、採血ではハウスダスト、卵、スギへの反応を指摘されました。卵の除去とステロイド、ワセリンの外用を約3年間続けました。

症状は十分に落ち着かず、4歳頃まで夜中にかゆみで目を覚まし、本人と家族の睡眠が妨げられていました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	生後2か月頃からステロイドとワセリンを毎日使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	生後2か月から4歳頃まで約3年間です。
中止時期	4歳頃に松本医院を受診し、中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後2か月	発症・使用開始	太ももや背中に赤みが出て、ステロイドとワセリンを開始しました。
その後約3年	長期使用	毎日外用を続けましたが、夜間のかゆみが続きました。
4歳頃	治療開始	松本医院を受診し、漢方入浴、煎じ薬、外用処置を開始しました。
治療開始後約1か月	ピーク	顔と全身が腫れ、各部位から浸出液が出て、痛みで動くことを嫌がり、保育園へ通えませんでした。
その後	回復傾向	皮膚の赤みが減り、丈夫な皮膚へ変化しました。
1年半後	生活変化	夜間に掻かず眠れるようになり、生卵以外の卵料理を食べられるようになりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始後約1か月に、顔と全身が腫れ、浸出液と痛みが強く、保育園へ通えなかった時期です。

5. 困りごと

- ・夜間のかゆみで本人と家族が眠れない状態が4歳頃まで続きました。
- ・全身の腫れと浸出液、痛みのため、約1か月保育園へ通えませんでした。
- ・卵の除去食を長く続ける必要がありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

項目	値・推移
IgE	2014年7月26日 21,200、2015年8月12日 20,750、2015年12月9日 13,050。
TARC	2014年7月26日 1,182、2015年12月9日 504。
LDH	377 → 263 → 235。
リンパ球	27.0% → 37.5% → 44.0%。

7. 経過のまとめ

治療開始後約1か月は全身の腫れ、浸出液、痛みが強く、保育園へ通えない状態でしたが、その後は皮膚の赤みが減り、丈夫な皮膚へ変化しました。

1年半後には夜間に掻かず眠れるようになり、生卵以外の卵料理を食べられるようになりました。IgE も 21,200 から 13,050 へ低下しました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。